

「母間小学校の池間棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

徳之島町立母間小学校

2 学年・人数

3～6年生及び職員（計29人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年7月～9月 総合的な学習の時間（6時間）

母間小学校体育館及び校庭

(2) 発表の日時・場所

令和4年9月25日（日）

徳之島町立母間小学校 第75回秋季大運動会

母間小学校校庭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能

(1) 名称

池間棒踊り（いけまぼうおどり）

(2) 由来

大正時代、下久志の青年たちが仕事の関係で奄美大島の龍郷町屋入鉦山で働いていた時、その鉦山で同じく鹿児島から来ていた鉦山師が祝いの席などで勇ましい棒踊りを披露した。下久志の青年たちは、その魅力に惹かれ、棒踊りを習得し帰島した際に様々な行事で棒踊りを踊った。池間の青年たちもその踊りに惹かれ、棒踊りを習得し、「池間棒踊り」を完成させた。（昭和63年10月15日町指定 民俗文化財に指定）

(3) 構成等

4人一組であるが、赤組、白組と2人ずつに分かれて踊る。2部構成で、前半は赤白どちらも長い棒を持って踊る。後半は白組だけが短い棒に持ち替えて踊る。

保存会の歌い手があり、その歌に合わせて勇ましい棒を打ち合わせたり、相手が振り下ろす棒を受けたりする動作を、隊形を変えながら行う。

5 保存会や地域との連携の具体

平成14年、創立100周年記念式典で披露したのを機に毎年運動会で児童とプログラムに位置付けて踊っている。「池間棒踊り」を総合的な学習の時間で学習する際は、「池間棒踊り保存会」の方がゲストティーチャーとして踊りの形を指導したり歌を歌ったりしながら練習に関わってくださっている。本番の秋季大運動会では、一緒に参加して太鼓や歌、かけ声を担当してくださっている。また、「池間棒踊り」の発表の機会を増やそうということで、平成29年から地域の敬老会では、子ども育成会の保護者が中心となって児童の「池間棒踊り」を披露している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

ふるさと教育として総合的な学習の時間の6時間を使い、伝承活動を行っている。昨年度の動画を視聴したり保存会の方の歌を録音して活用したりと、自分たちだけでも練習ができるような体勢を整えている。また、練習の際は、上学年の児童が、初めて踊りに参加する学年をサポートする場を設定した。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【前半：どちらも六尺棒を使用】



【後半：白組は三尺棒に持ち替えて】



【教職員も一緒に踊ります】



【運動会では保存会の方の歌で】

8 参加児童・教職員・保存会の感想・意見

- ・ 4年間踊り続けて、一番上手に踊ることができたと思いました。そして、兄弟でも踊ることができたのが、よい思い出になりました。今までずっと大切に受け継がれてきているので、下級生も大切に受け継いでいってほしいと思います。(児童)
- ・ 保存会の方々の御指導により、地域で子供たちを育てるいい機会になったと思いました。今後、保護者や卒業生、保存会の方々と一緒に踊ることができたら、ますます意義深い伝承活動になると思います。(教職員)
- ・ 前年度同様、子供たち一人一人が郷土芸能の池間棒踊りに一生懸命取り組む姿勢に感動させられました。また、上学年から下学年へと受け継がれているんだと改めて実感し、今後、子供たちが大人になって、次の世代に伝えていくきっかけになったらいいなと思いました。(保護者)
- ・ 今の3年以上の子供たちが対象ですが、池間の棒踊りは大人にも難しく、なかなかできないものを子供たちは毎年継続してやっていることを嬉しく思います。できれば、練習時間がもう少しほしいと思います。声をもう少し大きく出すことを心がけてがんばりましょう。(保存会)